

## 美しい国土づくり・美しい地域づくりのために ～シニックバイウェイへの期待～

### 1. シニックバイウェイ戦略の必要性・有効性

#### ①「美しい日本」に向けた取り組みを進めるべき時期が到来。その条件も熟成

→開発、成長の時代から「成熟の時代」へ  
→景観緑三法の成立、道路デザイン指針の確立など

#### ②「本当の『美』」に対する要請の高まり

→「外観」に止まらない、「人の営み」・「文化」・「歴史」等が総合化された美

#### ③「都市型生活」一辺倒から、多様な「地域での暮らし」への志向が顕在化

→都会の便利さだけが良いわけではない(ex. 多自然型居住への志向など)  
→心の原風景

#### ④シニックバイウェイへの期待

→既往の「道路政策」を超えた、全く新しい概念の政策  
○時間短縮至上主義から、美しい日本を目指した道路行政への転換  
○国土づくり・地域づくり・人づくり・心づくりを標榜する政策  
→地域への愛着、誇り、おもてなしの心、志を醸成  
→その展開を通じ、21世紀型の「公」を模索。地域の主体的参加を期待

## 2. 施策のイメージ(試案)

### ①「既に美しいみち」に限定せず、「可能性」を大事に

- 潜在性も勘案して、幅広(横・縦とも)のゾーン指定も検討(別添イメージ)
- その上で、資源の価値や熟度に応じ、逐次具体化(コア)
- 自然・歴史・文化・(人の)営みなど、様々な可能性を秘めた資源を意識

### ②幅広のゾーンの中に、「コア・ルート」や「コア・スポット」を設定

- 資源の質、地域活動の熟度等を勘案した設定(「汗かく人」を大事にする)

### ③地域資源のブランド化

- 「本物」の資源の再認識(既存資源の磨き上げ+新資源の掘起こし)
- 「本物」を結ぶことによって、道自体も結果的にブランド化(副次的効果)

### ④留 意 点

- 地方の主体性、独立性を尊重し、地方の自主的な取り組みを許容

## 3. 地方での取り組み体制(イメージ試案)

### ①ブロックごとに、多様な組織の参画による「協議会」の設立

- 各種地域活動団体、経済界(生産・観光)、道に関わる団体、行政など
  - ブロック内での各種関連活動をコーディネート、ブロック基本スキーム企画
- ↓

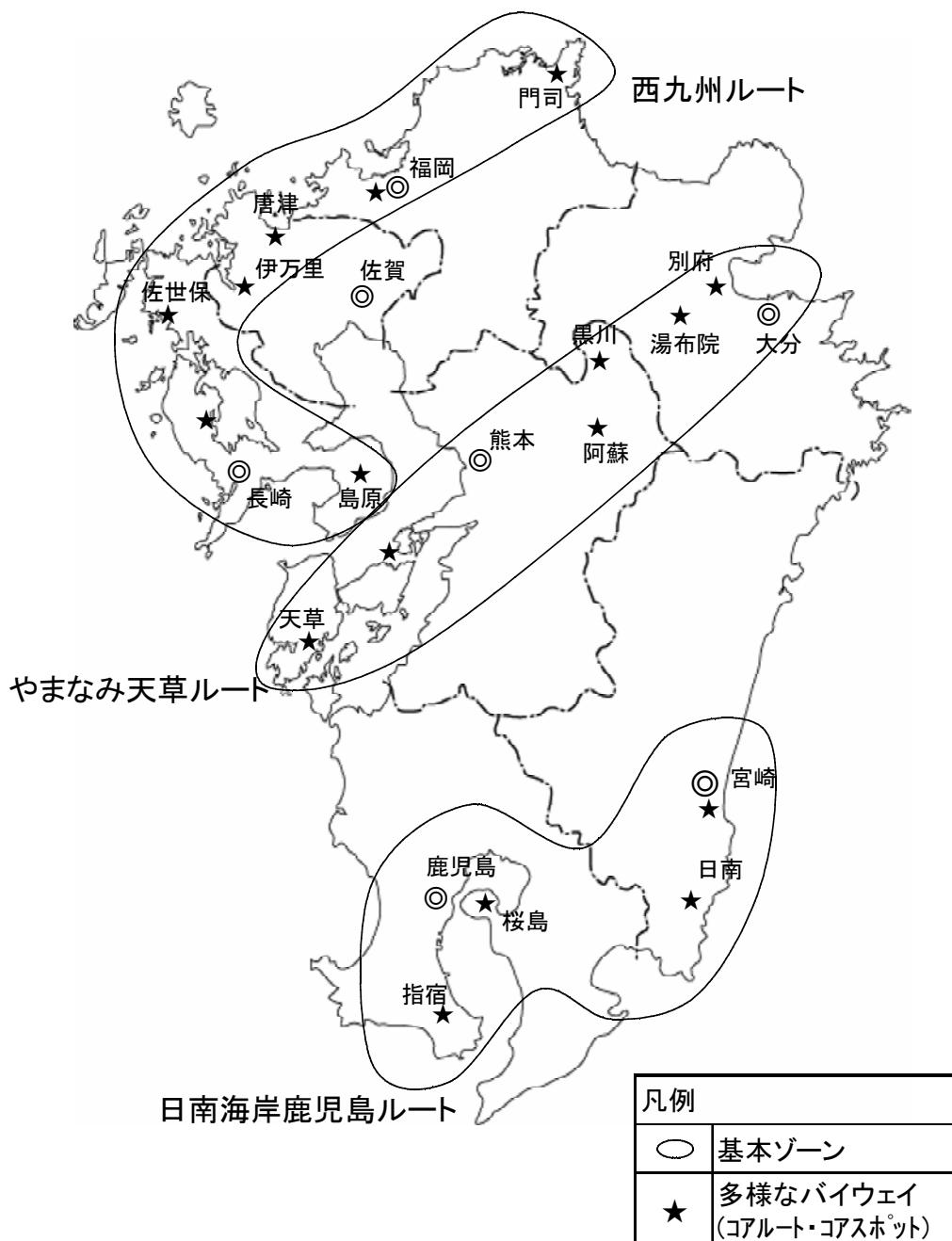
### ②地域サポートセンター(仮称)的な役割も必要か

- 資源のブラッシュアップ・掘り起こし、HPによる情報提供、マーケティング、プロモーション 等で個々の地域活動をバックアップ
- ↓

### ③広域的な連携・支援を企画・実践

- 地域と行政・NPO相互をネットワーク化、行政への要請(ハード、ソフト)

## 【シニックバイウェイ九州ゾーンイメージ（試案）】



## 【シニックバイウェイを進めるに際しての着目する点】

- ◆ 多様なバイウェイ（景観ルート、寄り道、脇道、街歩きなど）
- ◆ 道の駅等の拠点性（現地でのサイン、情報発信ツールとしての役割）
- ◆ 広報戦略、マーケティング、ビジネスモデル